

禁教(1587 年～)

日本でのキリシタン弾圧

日本 26 殉教者の油絵(大浦天主堂蔵) 踏み絵(外海歴史民俗資料館蔵)

伝来した当初、キリスト教は天下統一を果たした豊臣秀吉によって受け入れられていました。しかし、この好意的な態度は長くは続きませんでした。1597 年には、26 人の日本人と外国人を含むキリシタンたちが捕らえられ、京都から長崎へ連れてこられ、長崎の西坂の丘において磔の刑に処されました。

徳川幕府が発足した直後には、キリスト教への迫害は散発的にしか起こりませんでした。ただし、1614 年にキリスト教禁止令が発布され、1629 年には踏み絵（キリスト教を信仰していないことを証明するためにキリスト教の聖像画を踏ませる行為）が実施されました。嫌疑のかかったキリスト教徒が踏み絵を拒否した場合、信仰を放棄するまで拷問を受けさせられました。

1637 年に、多くのキリシタンを含む 37,000 人が島原で起こした一揆は、日本におけるキリスト教への最終的な打撃となりました。この一揆の後、徳川幕府はキリスト教を反政府的な宗教だとみなし、これがヨーロッパ人の完全な排斥へとつながりました。しかし、オランダ東インド会社は、貿易のみを目的とすることで、長崎港の小さな島、出島で活動を続けることを許されました。